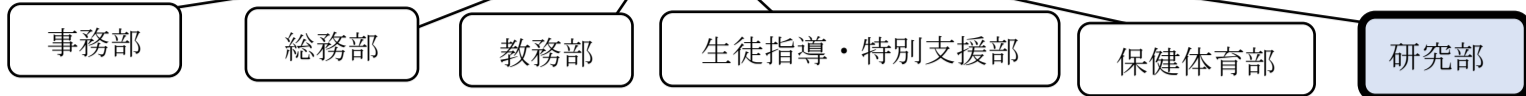


令和6年度の「学校教育目標」と「乃木小でめざす児童像」

未来に向かって ひとみかがやき 笑顔あふれる 乃木っ子の育成

未来に向かって
 確かな学力を身につけ、知恵を働かせて自分で行動する子ども
 ○主体的に学ぼうとする意欲がある。
 ○獲得した知識を活用して適切に判断し、生活をよりよくしようとする。
 ○自分の思いを生き生きと表現できる。

その実現をめざす各部

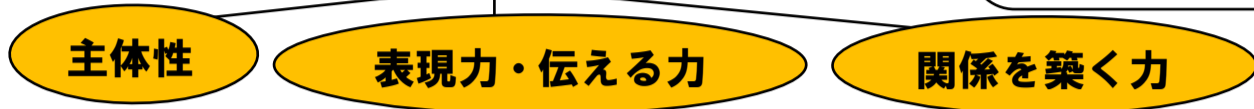


●教職員が感じている子どもの姿（令和4年4月21日の語らいより）

よい姿（強み）	さらに伸ばしたい姿（弱み）
<ul style="list-style-type: none"> 素直な子が多い。 真面目に取り組める。 言われたことを一生懸命できる。 よく働く。（そうじ・当番など） 比較的指示がよく通る。 	<ul style="list-style-type: none"> 受け身、指示待ちでなく、もっと自分で考えて動く姿を増やしたい。 もっと自分からあいさつする姿を増やしたい。（あいさつされたら返す姿が多い） 返事の声、発表、朝の歌などの声をもっと元気にいきいきと言えるといい。 もっと表現力を高めたい。（伝えるための語彙を増やす 伝えようとする姿勢が高まる） 子ども同士のつながりがもっと広がり、豊かになるといい。（固定化 希薄化）

全校849人（県内1の規模）
 【昨今の生活の変化】
 ・生活・家庭環境、子育てに関する考え方の多様化
 ・ICT機器の導入による活用機会の増加
 ・子どもの学び、生活経験の偏り
 ・トラブルの解決がうまくできない。（経験不足）
 ・社会環境の変化（インターネット・ゲーム時間の増加）

●教育活動全体で育みたい力



●授業場面でめざす具体的な姿（令和6年4月17日の語らいより）

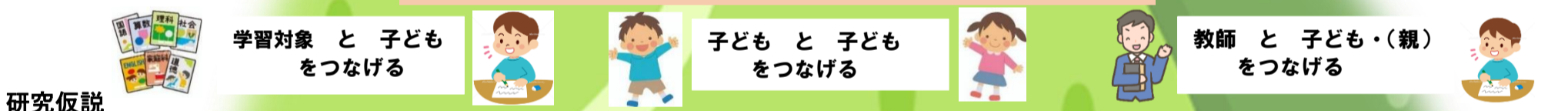
	主体性	表現力（主にアウトプット）	関係を築く力（聞く 受け止める姿勢）
低学年	<ul style="list-style-type: none"> めあてや目標にむけて自分から取り組んでいる。 「わかった」や「わからない」が言える。 最後までやりぬこうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもてる。（文字、図、絵など） 自分の考えを友だちに伝えられる。（話せる 書ける） 相手に届く声で話せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守っている。 体を向けて話を聞ける。（目と耳と心で） 相手の考えを聞いて反応できる。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 問い（学習問題）について予想や見通しをもって取り組んでいる。 「わからないこと」や「知りたいこと」について質問している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えについて理由を加えながら伝えられる。 相手の意見と比べながら自分の考えを伝えられる。（「同じ」や「似ている」、「違い」に注目して） 自分の日々のくらしと関連付けて伝えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の考えや思いに関心もてる 自分の考えと比べながら聞ける。 友だちに相談ができて、助け合える。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分で問い（学習問題）を見つけて取り組んでいる。 試行錯誤して取り組んでいる。 わかった内容と、わからない内容を自覚している。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで学んだことや教科の言葉を使って伝えられる。（話せる 書ける） 自分の得意な表現の仕方を知り、それを使える。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの違いを認め合える。 多様な考えを受け入れられる。 相手の話の意図を考えながら聞ける。（1往復半の対話）

令和6年度の研究主題

「仲間とともに自ら学び、豊かに考え表現できる乃木っ子の育成」

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「授業づくり」と子どもたちの笑顔があふれる「集団・関係づくり」の充実を通して～

研究の切り口(キーワード)は「対話」でつなげる！



研究仮説

○本時や単元で育みたい資質・能力を明確にし、子どもが対話したくなる授業づくりを工夫すれば、主体的に学びに向かい、多様な考えを受け止めながら自分の考えを表現しようとし、さらに自分の学びを深める子が育つであろう。
 ○子どもが安心して過ごせる集団づくりや関係づくりを工夫すれば、多様な考えを受け止めながら、日々のくらしを自らよりよくしようとする子が育つであろう。

研究内容（子どもの実態や語らいをふまえた具体的な取り組み）

<h4>A 本時や単元で育みたい資質・能力が明確で、子どもが対話したくなる授業づくり</h4> <ul style="list-style-type: none"> 内容をこなす学習から学びたくなる学習へ 「話し合っただけで考えが変わった」「できるようになった！」というような学びの実感がもてる学習へ 	<h4>B 子どもが安心して過ごせる・語れる集団づくり</h4> <ul style="list-style-type: none"> 「この友だちは〇〇が素敵だな」「友達と一緒に活動すると楽しいな」と感じられる関係づくり 「〇〇さんのために頑張りたい！」と友達や異学年を大切にできる学級・学年経営、行事経営 	<h4>C 子どもとのつながりをさらに深める関係づくり</h4> <ul style="list-style-type: none"> 現代の子ども（親）が、「話をしたくなる」、「頼りたくなる」ための、日々の関わり方の工夫
<h4>A-1</h4> <p>子どもが追究したくなる教材との出合わせ方（導入）や課題設定（問いづくり）の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味関心が高まる魅力的な教材・題材 自分のくらしとのつながりが感じられるもの 互いの意見に違いがあり、答えが複数あるもの 既習とのズレ（GAP）から問いを生み出す <h4>A-2</h4> <p>思考力・判断力・表現力を高める学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要感、目的が明確な対話場面の設定 様々な方法で自分の考えを表現する場面の設定 ICT機器や思考ツールなどの効果的な活用 習得した知識・技能を使う活用場面の設定 <h4>A-3</h4> <p>子どもの思考を深める働きかけの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 見方・考え方が働くよう意識した発問や指示 どの場面で、何のために、何をするか 意見を繋げる 問い返す 掘り下げる など 	<h4>B-1</h4> <p>子どもの自己有用感を高める場づくりの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の取り組みのよさが実感できる 授業の中の活動で 行事の中の計画や運営、役割の中で くらしの中の一場面 <h4>B-2</h4> <p>共感的雰囲気をつくる働きかけの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども同士が互いのよさをわかり合える 得意や不得意、思いや考えなど、互いの違いを認め合える 頑張っている人を応援できる 	<h4>C-1</h4> <p>信頼関係を深める認め方・関わり方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 傾聴 肯定的な声かけ 中長期的な成長を見越した声かけ 授業場面 ノート指導 休み時間など <h4>C-2</h4> <p>くらしや授業の中での子どもの姿の受け止め方、評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども自身が「自分の学びや成長の実感」を得られるような声かけ 「まだわからない」、「自信がもてない」姿に寄り添う姿勢 多様な評価方法の活用（授業の振り返りや各種成果物、ルーブリックやパフォーマンス評価などを実際の子どもの指導に生かすなど）